

国土形成計画法第9条に基づく
近畿圏広域地方計画

関西広域地方計画

【基本的な考え方】

令和5年7月

近畿圏広域地方計画協議会

目次

はじめに

第1部 関西の現状と課題

第1節 関西の地域構造

第2節 関西の特徴・強み

第3節 関西を取り巻く現状と課題

第2部 関西の将来像とその目標・戦略

第1節 活力ある圏域づくり

- 1 日本中央回廊の西の拠点として我が国の成長を牽引する関西
- 2 快適で豊かに暮らせる地域生活圏の形成を目指す関西

第2節 安全・安心な圏域づくり

- 1 巨大災害リスクに対して持続可能な国土・社会を目指す関西
- 2 人と自然が共生する持続可能な関西

第3節 個性豊かな圏域づくり

- 1 日本の歴史・伝統・文化が集積し、世界を魅了し続ける関西

はじめに

- ・国土づくりの理念や考え方を示す「国土の長期展望 最終とりまとめ(令和3年6月)」や「国土形成計画(全国計画) 中間とりまとめ(令和4年7月)」、新たな「国土形成計画(全国計画)」を踏まえ、新たな「近畿圏広域地方計画」の策定を行う
なお、本計画においては、「近畿圏」を「関西」と称する
- ・計画の対象区域：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県及び和歌山県の2府4県
- ・計画の期間：本計画の計画期間は、2050年、さらにその先の長期を見据えつつ、今後概ね10年間とする
- ・その他
本計画においては、特に断りのない限り、「関西」と記す場合上記の関西圏の範囲を指す

第 1 部 関西の現状と課題

第 1 節 関西の地域構造

- ・ 日本海、瀬戸内海、太平洋に面するほか、日本最大の湖である琵琶湖を有する
- ・ 京都、大阪、神戸の 3 大都市とその周辺都市を中心とした地域に人口の約 8 割が集中する一方で、日本海側や紀伊半島など過疎地等を含む地域も抱えている

第 2 節 関西の特徴・強み

(1) 歴史が深く息づき、個性的で多様な地域からなる関西

- ・ 古来より日本の中心であり、長い年月をかけて多様な文化を創造、継承、蓄積
- ・ 世界文化遺産や国宝、重要文化財をはじめとする豊富な歴史・文化資産が集積
- ・ 都市と自然が近接し、都市と自然の魅力を同時に享受できる恵まれた地域

(2) 産業等の諸機能の集積が進んだ関西

- ・ 人口 2,040 万人、域内総生産額(GRP) 89 兆円の経済規模を有する我が国第二の経済圏。貿易相手国はアジア諸国が最も多く、アジアとの経済交流も活発
- ・ 圏域内外を結ぶ高速道路、新幹線、空港、港湾等の交通基盤が充実する一方、高規格道路のミッシングリンクの存在や交通容量の不足に伴う渋滞、さらに国際基幹航路の減少などの課題もある
- ・ 地域の発展に「民」の力が大きな役割を果たしてきた関西は、新たな官民連携によって社会的課題を解決する「新しい資本主義」を実践する素地が根付いている

(3) 最先端の技術力で我が国を牽引する関西

- ・ 大学や研究開発拠点が集積し、医療や脱炭素等のエネルギー分野をはじめとする最先端の研究開発が進展
- ・ 優れた技術力を有する中小企業をはじめとした特色あるものづくり企業や海外で評価が高いマンガ、アニメ、ゲーム等のコンテンツ産業が集積
- ・ 大阪・関西万博のレガシーの継承・発展や国家戦略特区での DX など先端的取組により、「未来社会」の関西での先行的実現に向けて果敢に挑戦

第 3 節 関西を取り巻く現状と課題

(1) 本格的な人口減少社会の到来と急激な高齢化の進行

- ・ 関西の人口は 2010 年をピークに減少基調となり、2020 年から 2045 年までの間で約 360 万人近く減少する見通しで、人口減少率は三大都市圏で最も大きい

- ・本格的な人口減少下で、企業の人手不足や地域づくりを担う人材不足のほか、今後老朽化が加速度的に進行するインフラの維持管理に携わる自治体の担い手不足への対応も課題
- ・超高齢社会の本格的な到来に伴い、医療・介護・福祉需要の増加や、特に高度経済成長期に建設されたニュータウンでは高齢人口の増加による「まち」としての活力低下が課題

(2) 関西の相対的地位の低下

- ・関西は我が国第二の経済圏であるが、GRPの伸び率は首都圏、中部圏よりも鈍く、首都圏との経済規模の格差は拡大傾向。日本経済全体の国際経済における相対的地位の低下との二重の意味で、関西の相対的地位の低下はより深刻さを増している
- ・リニア中央新幹線の東京－名古屋間や、北陸新幹線の金沢－敦賀間の先行開業により、関西が取り残されるのではという危機感がある
- ・コロナ禍による外国人旅行者の急激な減少は、関西経済に大きな打撃。コロナ後のインバウンド回復・反転攻勢に向けた圏域全体での取組が課題

(3) ポテンシャルを活かし切れていない京阪神大都市圏

- ・関西は京都、大阪、神戸の三大都市をはじめとする都市拠点が分散し、多核型の圏域構造
- ・大阪圏は東京圏と比較して地価が安く、医療や教育環境も充実する一方で、都市圏を結ぶ都市高速道路において全国有数の渋滞損失が発生しているほか、20代～30代前半の世代の転出が多いなど人口が転出超過の状況。都市としてのポテンシャルを活かし切れていないことが課題

(4) 地方都市の活力低下と農山漁村の集落機能の低下

- ・地方都市の人口減少・高齢化、低未利用地・空き家の増加等は、地方創生上の重要課題
- ・地域間や地域内の拠点を連結する交通ネットワークを確保し、地域の暮らしや経済を維持・活性化させるため、道路ネットワークの強化や持続可能な地域公共交通の確立に向けた対応が課題
- ・第1次産業は農業、林業、水産業のいずれも産出額がここ10年ほぼ横ばい状態で、従事者の減少や高齢化の進行が課題。また、食料の海外依存リスクの高まり等を踏まえ、食料等の安定供給と農林水産業の成長産業化が課題

(5) 関西を脅かす自然災害リスク

- ・今後 30 年以内に 70%～80% (40 年以内に 90%) 程度の確率で南海トラフ地震の発生が危惧。また、上町断層帯など活断層型地震のリスクもある
- ・全国的にも気候変動の影響により、自然災害が激甚化・頻発化。関西では近年も 2018 年の大阪府北部地震や 7 月豪雨、台風第 21 号をはじめとする地震や風水害・高潮・雪害、土砂災害等が多数発生
- ・大阪平野の多くは海拔ゼロメートル地帯で都心部は地下街も多く、こうした水害リスクへの対応も課題

第 2 部 関西の将来像とその目標・戦略

第 1 節 活力ある圏域づくり

1 日本中央回廊の西の拠点として我が国の成長を牽引する関西

～挑戦し、成長する関西～

(圏域の将来像)

- ・三大都市圏を結ぶ日本中央回廊の西の拠点として、アジアを中心に世界からヒト・モノ・カネ・情報と呼び込むゲートウェイとなるシームレスな重層構造の圏域
- ・医療・ライフサイエンス等の分野やグローバルニッチ企業等の特色あるものづくりの伝統を活かし、さらに大阪・関西万博のレガシーの承継・発展により、我が国の成長エンジンとなる圏域
- ・大学、研究機関、知的交流拠点等の集積・連携を活かし、創造性豊かで多様な高度人材が集まり、新たなことに挑戦し、イノベーションを発信し続ける圏域
- ・日本海側・太平洋側の二面活用に加え、瀬戸内海を介した西日本の圏域との連携の利点を活かし、国土の均衡ある発展や地域経済の活性化を実現する圏域

(その実現に向けた目標・戦略)

三大都市圏を結ぶ新たな交流圏域の形成による地方活性化、国際競争力強化を図るため、関西の強み（産業等の集積、最先端の技術力・人材等）や地域特性（日本海側・太平洋側の二面活用等）を活かし、以下について戦略的に取り組む

- ・日本中央回廊のインパクトを、圏域内はもとより、他圏域や地方経済へと拡大・波及させるための国内外のネットワーク強化
- ・産学官の連携促進で、成長エンジンとなる新たな産業の創出・強化
- ・我が国の成長産業やイノベーションの創出を支える多様な人材を確保・育成するとともに、新たなことに挑戦する環境整備を推進
- ・デジタル技術等を活用した地域経済の活性化・稼ぐ力の向上

2 快適で豊かに暮らせる地域生活圏の形成を目指す関西

～どこでも豊かに暮らせる関西～

(圏域の将来像)

- ・デジタルの徹底活用と広域連携、官民連携の推進により、関西のどこに住んでも教育、医療、福祉、文化、スポーツ等の豊かな暮らしを実現できる「地域生活圏」を形成する圏域
- ・都市と豊かな自然や安らぎを提供する里山・里海が近接している関西の特徴を活かし、二地域居住など新たなライフスタイルを実現しやすい圏域
- ・生活や働き方の視点を変える「ワークinライフ」を全国に先駆けて実現する圏域
- ・多様性を活かして関係人口を多数生み出し、都市部と地方部が相互に連携して発展する圏域
- ・就学、労働、出産、子育て、趣味等、ライフサイクルの様々なシーンにおける魅力があり暮らしやすい圏域

(その実現に向けた目標・戦略)

京阪神都市圏から地方の中小都市、生活に身近な地域コミュニティに至る重層的な圏域ごとに、デジタルとリアルのハイブリッド活用や地域間の連携・補完、民の力を最大限に活用する視点を持ちながら、関西のどこに住んでも快適で豊かに暮らせる地域生活圏の形成を目指し、以下について戦略的に取り組む

- ・関西の成長・発展を牽引し、快適で暮らしやすい都市機能・環境の再構築
- ・人口減少下においても持続可能なまちづくり・地域づくりを支える環境整備の推進
- ・空き家対策と所有者不明土地対策の総合的推進や建築・都市のDXの推進等による圏域管理の高質化
- ・少子高齢化に対応した社会システムの構築
- ・関係人口の拡大
- ・女性をはじめ、誰もが活躍できる社会の実現

第2節 安全・安心な圏域づくり

1 巨大災害リスクに対して持続可能な国土・社会を目指す関西

～災害に屈しない強靱な関西～

(圏域の将来像)

- ・南海トラフ地震・津波等巨大災害への備えや、気候変動に伴い頻発化・激甚化する風水害・高潮・雪害・土砂災害等に対応する総合的な防災力の高い圏域
- ・平時から防災・減災に対する高い意識を官民が共有し、災害への備えや被災経験の継承等を実践する圏域
- ・産業構造の円滑な転換を推進し、成長産業が分散立地することで、巨大災害リスクの軽減を目指す圏域
- ・首都圏の有する諸機能のバックアップを担い得る圏域

(その実現に向けた目標・戦略)

関西が直面する南海トラフ地震・津波等の巨大災害リスクや気候変動に伴い頻発化・激甚化する自然災害リスク、社会資本の老朽化の加速に対応し、デジタル等新技術の活用を図りながら、圏域の安全・安心、暮らしや経済を守る防災・減災、国土強靱化を強力に進めるため、以下について戦略的に取り組む

- ・社会資本の老朽化対策の推進等による強靱な国土の構築
- ・府県あるいは圏域を超えた広域的な防災体制の確保やハード・ソフト一体となった流域治水をはじめとする総合的な防災・減災対策の推進
- ・地域の特性や住民一人一人の多様性を踏まえた、地域関係者の連携等による地域防災力の強化
- ・情報通信ネットワークの強靱化や災害情報を共有するシステム整備の促進等による災害対応力の高度化
- ・官民による平時からの首都圏とのデュアルオペレーション体制の構築の促進

2 人と自然が共生する持続可能な関西

～カーボンニュートラル・SDGsを実現する関西～

(圏域の将来像)

- ・持続可能な産業への構造転換や、再エネの最大限の導入、市町村におけるゼロカーボン表明、市民生活における温室効果ガス排出抑制など、2050年カーボンニュートラルの実現に向けてあらゆる主体が総力を挙げて取り組む圏域
- ・豊かな自然環境の保全・再生、景観を含む都市環境の改善・保全などの環境対策に圏域全体で取り組む環境先進圏域

- ・健全な水循環の維持・回復、水文化の継承、多様な生態系の保全・再生に取り組み、また地域特性等に応じて最適な規模の資源循環を形成し、循環型社会を実現する圏域
- ・SDGsの達成に向けて、行政、企業、市民などあらゆる主体が積極的に取り組む圏域

(その実現に向けた目標・戦略)

都市と豊かな自然や安らぎを提供する里山・里海が近接するなど、人と自然のつながりが深い関西の特徴を活かし、あらゆる主体が連携して、人と自然の共生、カーボンニュートラルの実現等を図るため、以下について戦略的に取り組む

- ・カーボンニュートラルの実現に向けた官民連携による地域づくりやインフラ等における再エネポテンシャルの有効活用の推進
- ・脱炭素の基盤となる新たな産業・技術（水素・蓄電池等）の強化や水素・燃料アンモニア等の供給体制の整備の推進
- ・自然環境との共生・保全・改善と生物多様性の確保
- ・官民連携によるグリーンインフラの社会実装の推進
- ・自然や緑を活かした都市環境の改善

第3節 個性豊かな圏域づくり

1 日本の歴史・伝統・文化が集積し、世界を魅了し続ける関西

～多様な文化・自然の魅力がいっぱい関西～

(圏域の将来像)

- ・長い歴史とそれに培われた伝統文化を有し、多くの個性的な地域と豊かな自然など、関西特有の歴史・伝統・文化や豊富な地域資源を次世代に継承する圏域
- ・世界に誇る歴史・文化資産をはじめ、暮らしに息づく伝統・生活文化、四季折々の自然や身近な水辺空間、多彩な食文化などの地域資源を活かした「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりと、文化庁とも連携した日本文化の関西からの創造・発信により、世界の人々を惹きつけてやまない圏域
- ・世界からの来訪者を含むすべての人々が、快適かつ便利に関西各地を移動・滞在し、その地域の魅力を存分に味わうことができる圏域

(その実現に向けた目標・戦略)

世界に誇る歴史・伝統・文化をはじめ、個性的で多様な地域からなる関西の魅力に更に磨きをかけ、次世代に継承していくとともに、世界の人々が訪れ、魅了し続ける圏域となるため、以下について戦略的に取り組む

- ・歴史・伝統・文化の継承・利活用や地域資源の活用による観光振興及び地域活性化の推進
- ・地域住民の生活や地域の文化、自然の保全と両立した持続可能な観光地域づくりの推進
- ・デジタル技術等の活用による観光DXの推進
- ・他圏域との交流連携を含む広域観光の推進
- ・観光立国推進に向けた、関西からのインバウンド拡大